

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年4月1日

事業所名 淡路こども園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		十分にスペースは確保されている	
	2	職員の配置数は適切である	○		個別対応に必要な利用児も含め職員を配置している	配置数は満たしているが子どもが状況によって一人になる事がないよう配慮したい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	エレベーターが設置されていないので、車いす利用児については危険がないよう配慮して、介助を行っている	古い建物で段差や階段があるので気をつけていきたい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		施設長、責任者、現場の職員でPDCAサイクルに取り組んでいる	引き続き職員全体で取り組んでいきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末に職員全員でアンケート結果をもとに話し合いを行い、改善に向けて取り組んでいる	新年度に改めて評価結果をもとに気をつけるべき事を共有していきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している(4月1日)	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在、第三者評価は行っていませんが、今後必要であれば検討したい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修委員が中心となって、年間の研修計画を立て、虐待や感染症、ケガの対応等も含め研修をほぼ毎月行っている	職員の希望する研修等も聞いて、内容を検討したい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		本人の思いや保護者のニーズをもとに課題を設定し計画を立てている	本人の思いと保護者の願いに差がある場合は、すり合わせをして課題を作成していきたい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		本人の意思、要求など人とのコミュニケーションを基本に生活習慣、認知、興味、社会性の領域で状態を把握している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		週に一度は話し合いを持ち、プログラムの作成や見直しをしている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節ごとのプログラムや、子どもの意見を取り入れる等して、工夫している	内容がマンネリ化しないように、同じプログラムでもやり方や展開の仕方を工夫したい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	課題プログラムは、こどもの希望や主体性を尊重して、支援している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動や集団活動等、本人の状況に応じたプログラムを作成している	実施にあたっては子どものつもりや意思を尊重して実施したい
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		時間は短くても打合せをしたり、打ち合わせに出れない人は書面等で活動内容や動き方を知らせるようにしている	職員同士が保育に入る前に主体的に確認し合うようにしていきたい
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に利用者の状況の確認と活動の見直しをしている	次の支援につながるように情報共有を徹底したい
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		単に活動内容を書くのではなく利用者とのやりとりを大切に記録し、気になる事や問題点があれば責任者に報告し対応している	記録を書いて終わりではなく、次にどう支援していったらいいのかを踏まえて書くように周知したい
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		子どもの状態や家庭の状況もふまえて見直しの必要性を検討している		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		創作、運動など子どもが楽しめる活動を工夫している		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもに関わる職員が出席して会議をしている		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			直接学校と情報交換したり、連絡をする事もあれば、保護者を通してする等、適宜やりとりをしている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			現在は医療的ケアの必要な子どもの利用はないが、受け入れにあたっては、看護師を中心に主治医との連絡体制を整えたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			引継ぎや情報共有は積極的に行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			保護者の了解を得た上で、支援経過や配慮点も含めて情報提供している	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			できるだけ研修に参加するようにし、気づきや振り返りの機会を得るようにしている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		1部の子どもは交流している	子どもの負担にならないよう、メンバーや交流の仕方は検討して行っていきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			東淀川区自立支援協議会のこども部会で部会長を担っており、研修や勉強会、事例検討等を他機関と連携して取り組んでいる	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			保護者と本人の状況についてなるべく直接話したり、話を聞く等コミュニケーションを取るようにしている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			既存のペアレントトレーニングとは違うが、本人主体と家族支援の両輪で親子共に自尊感情や自己肯定感を育めるように支援している	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に個別で説明し、その時に十分にご理解いただけない場合は、その後も質問に答える形で、説明する等している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			個別相談、グループ相談、カウンセリング等、日頃から保護者の話を聞いたり、保護者の方からも相談しやすい関係づくりを心がけている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会はないが、月2回保護者が集まる日があり、交流している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情や注意については迅速かつ誠実に対応することを心がけている。内容は記録に残している	苦情については職員に周知し、職員全員で気をつけていきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月、園だよりを出して活動の予定や子どもの様子、お知らせ等の情報発信をしている	
	35	個人情報に十分注意している	○			書類はカギのついた書庫に保管するようにし、個人情報同意書に基づいて適切に取り扱えるようにしている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			丁寧なことばがけや文字、絵などを用いる等、視覚的な支援も取り入れてわかりやすく伝えるよう努めている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		2020年2021年とコロナ渦で実施できなかったが、例年地域の人にも施設を開放して、おまつりをしている	コロナがおさまったら行事を再開したい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルは保護者の方が見やすい場所に設置している	マニュアルの説明する時間を持つ等周知の徹底に努めたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回の避難訓練の実施。年1回消防署の救急救命の講習を受けている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設置し定期的に研修を行っている	職員会議を行い、日頃から職員の意識を高めていきたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束を行う時は必ず事前に保護者に同意を得、その都度記録に残すようにしている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーがあるかどうか保護者に聞き取り、対応について情報提供してもらっている	現在は重いアレルギーのある子どもがいないが、必要に応じて医師の指示書を提出してもらい対応していきたい
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットについては記録に残すと共に、職員間で情報共有し、注意するようにしている	